



令和5年度 浜松市立北浜北小学校 学校だより

北心だより

令和5年 11月 2日 NO.7



合言葉「チャレンジ」

学校教育目標

心豊かでたくましく 夢に向かって
輝き続ける北北っ子

「真実は1つではない。真実は人の数だけある。」

～子供たち一人一人の思いを大切に～

「名探偵コナン」の主人公コナン君の決めセリフ「真実はいつも1つ」

私も、アニメに影響されたわけではないですが、真実は1つだと信じていました。

しかし、何かトラブルがあったときに、複数の人に話を聞くと、話が必ずと言っていいほど、食い違うことが出てきました。その時は、「どちらかが嘘を言っているか、忘れてしまったのか」と考えていました。

そんな時に、「ミステリと言う勿れ」という漫画を読みました。その中で、自分の常識を覆される言葉に出会いました。

「真実は1つではない。真実は人の数だけある。」

どういうことか、漫画の中の言葉を使って、説明します。

例えば、AさんとBさんがいたとします。

ある時、AさんとBさんが階段でぶつかって、Bさんが落ちてけがをしました。

Bさん	Aさん
日頃からAからいじめを受けていて今回もわざと落とされたと言います。	いじめていた認識など全くなく遊んでいるつもりです。今回もただぶつかったと言っています。

人は、主観でしかものを見られません。それが正しいとは言えません。

ここに、Cさんという一部始終を目撃した人がいたら、更に違う印象を持つかもしれません。

真実は、1つじゃない。2つ3つでもない。真実は人の数だけあります。

どちらも嘘をついていなくても、話を盛っていなくても必ず食い違えます。

しかし、**事実は1つです。**

この場合は、AさんとBさんがぶつかってBさんがけがをしたということです。

事実とはずれていても、1つ1つの真実には、子供の素直な思いが込められています。その事実をどんな気持ちで受け止めていたのかがよく分かります。私たち大人は、事実と真実を見極め、一人一人の子供の思いを共感しながら受け止める。そして、よかったことやいけなかったことなど一緒に考えていくことが大切だと思います。全ての子供たちが、安心して、前向きに生活していけるように、学校と家庭が連携して子供たちの成長をサポートし、応援いきましょう。

参照：「ミステリと言う勿れ 1巻 P41～P45」小学館 著者 田村由美
生徒指導 野末 恭佑